令和6年度 社会科 研究のまとめ

大西 弘員・伊藤 公一・小林 裕貴・西畑 郁希

1 社会科本来の魅力に迫るための教師の資質能力について

(1) 社会科が考える「教師の資質能力」の具体

社会科本来の魅力に迫るための教師の資質能力は、教科の特性上私たちが生きる「社会」から目標を見出し、題材を選択するため、社会科教員の価値観・考え方にも影響されやすく、これまで具体的に示すことができていなかった。しかし、3年間の研究の蓄積として暫定的ではあるが、社会科本来の魅力に迫るための教師の資質能力の内容を、授業実践を基に以下のように示すことができた。

資質能力	社会科が考える「教師の資質能力」の具体
授業構想力	<ul style="list-style-type: none"> ・教材と授業デザインとの往復をしながら、より児童・生徒が興味をもつことのできる面白い教材を見つける力 ・「持続可能な社会」に向け、公民的資質を兼ね備えた児童生徒の育成を目指した目標を設定する力 ・児童・生徒が学習した内容を、日常の事象に関連付けたり、身近に感じたりすると共に、「当事者意識」を持ち自分ごととして捉え、「学んだことを実生活に落とし込むことのできる」目標を設定する力 ・児童・生徒の社会的事象に対する意欲・関心と、それに基づき、児童生徒の学びにつなげる力 ・児童・生徒の視点に立って、知識・概念（内容知）の習得を基盤とした「わからない」を前提とした授業作りを行う力 ・学習した内容を児童・生徒が「多面的・多角的」に思考できるような、教科横断的な場面を設定する力
授業実践力	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒と教材を共有する中で、考えたいような手立てを講じる力 ・児童・生徒が、自分事として（切実な）問題意識をもてるようにする力 ・教師が学習内容を視覚化できるように、児童・生徒の思考を整理する力 ・児童・生徒が思考する際に、ICTを活用したり、複数の異なる資料をタイミングよく提示したりする力 ・児童・生徒が多様な資料を読み取ることのできるような手立てを講じる力 ・児童・生徒が、学んだ知識・概念（内容知）を総動員して、持続可能な社会に向けて思考し、解決に向かうことのできるように、ファシリテートする力 ・児童・生徒の実態に応じて、授業展開を改善する力
授業分析・評価力	<ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリックに基づいて評価を実施する力 ・児童・生徒の変容の見取りを通して、児童・生徒が目標を達成できたか否かを分析・評価する力。 ・児童・生徒の実態に応じて、授業を改善する力

(2) 社会科の特性に応じた見取りの方法について

①知識・技能

- ・知識テスト

②思考力・判断力・表現力等

- ・パフォーマンス課題による評価
- ・授業発話記録による分析
- ・毎時間の学習内容に対するまとめ

③学びに向かう力・人間性等

- ・取り上げる社会的事象に対する単元前後のアンケート
- ・毎時間のまとめ・ふりかえりの記述

(3) 授業公開で見取った児童・生徒の姿の例

資質能力	児童・生徒の姿	手立て
授業構想力	<ul style="list-style-type: none"> ○広島県の観光資源や観光地（主に外国人に人気の高い2つの世界文化遺産）などから、広島県の魅力と実際の実態とのずれによって、課題意識をもっている児童の姿。 ○自国の食料自給率に目を向けて考えていたため、他国の気候や社会情勢が及ぼす自国への影響に課題意識を強く感じる姿。 ○「ふるさと納税」目的が達成されていない場面があることがあること、とりわけ「返礼品」を用意したり、輸送コストがかかったりし、逆に財政面で負担をかけていたことに目を向ける姿。 ○未来の肖像となるのはどういう分野の人物かという視点で、考えることができた。 ○林業の困り感を知り、持続可能な林業の仕組みを考えようとする姿。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の広島県の特色のある地域の観光地や特産品等に対する関心と、それにもとづいた自分たちの考える観光の実態と実際の広島県における観光の実態とをつなげながら考えられるようにした。 ・我が国の自給率の低い食材とその輸入様子が分かる「資料」と世界の様々な問題を記した「世界の出来事カード」を関係付けて考えていけるようにした。 ・「ふるさと納税」で地方公共団体に収入として入ってくる住民税以外に、他県へ「ふるさと納税」として流出する住民税があることから、それらを差し引きした金額が、マイナスに転ずる場合があることを確認した。 ・過去の紙幣肖像が選択された理由と当時の社会情勢を関連させて考える活動を仕組み、各時代を俯瞰して捉えることができるようにした。 ・持続可能な林業を実現する地域へ直接出向き取材を行い教材化する。
授業実践力	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちが暮らす広島県の魅力を意識しながら、問題意識をもつ姿。 ○身近な食材と自給率との関係を楽しみながら、課題として捉える姿。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が、自分事として広島県の観光における課題について問題意識をもてるようにした。 ・状態が悪化する様子の動画資料を導入で示し、課題意識が高くもてるようにした。

	<ul style="list-style-type: none"> ○仮説を立てて考えていく過程で、自分の考えを裏付ける資料を意欲的に探そうとする姿。 ○自分たちが暮らす広島県の人口減少率が一番高いことに痛感する姿 ○「広島県」や「広島市」の魅力として、「カープ」や「サンフレッチェ」を「返礼品」に活用することや、経済活動が活発になるためのアイデアを検討する姿。 ○森林・林業の問題は、広島に住む自分たちにも関係あることだと気づく姿。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報化過多な社会をイメージし、仮想インターネットとして、あえて資料を多く示し、情報を選択する必要性を感じられるようにした。 ・生徒が、自分事として広島県の人口減少の課題について問題意識をもてるようにした。 ・私たちが生活する「広島県」や「広島市」に多く「ふるさと納税」として住民税が入ってくるために、持続可能且つどのように魅力的な返礼品を用意すれば良いか、考えることができるようにした。 ・児童にとって身近な人も森林・林業の問題の当事者であることを伝えたり、地域の新聞を提示したりする。
授業分析・ 評価力	<ul style="list-style-type: none"> ○広島県の観光産業について問題意識をもった振り返り。 ○食糧生産の課題を自分事として捉え、他国にも着目し、課題解決への取り組みを考える記述。 ○持続可能な林業の仕組みにも言及した振り返りを書く姿 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の板書や資料をもとに、学習課題を意識できるようにする場面を設定した。 ・食料自給率に関して学習の中で考えたことをもとに、我が国の課題解決の方法を考えていけるような場とした。 ・ループリックを作成することで、児童の振り返りをより妥当性をもって評価した。

2 研究の成果と課題

成果	<ul style="list-style-type: none"> ○児童・生徒の変容を見取るためのループリックを設定したことで、資質・能力をもとづいた目標の達成状況をより客観的に把握することができた。 ○ループリック評価をもとにした児童・生徒の変容の様子から、資質能力の妥当性や有用性を吟味することにつなげることができた。 ○社会を生きる当事者となる児童の育成にあたって、自分事として考えたり判断したりできる教材の必要性を再確認することができた。 ○学習課題の解決に向けて資料を精選したり、児童生徒の思考に応じて資料を配布を決めたりと、社会科での資料の扱い方について明らかにすることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●単元を通したループリックの作成及び評価を通して、単元目標の達成状況の把握及び、資質能力の妥当性や有用性を検討することが今後必要である。 ●児童生徒が社会科本来の魅力に迫るための9年間のカリキュラムについて発達段階等を考慮しながら作成する必要がある。 ●社会科における「当事者性」を授業の中でいかに評価するのかについては、今後も研究を進めていく必要がある。 ●抽出児童の思考の変容などに焦点を絞り、一人一人の児童生徒がどのように社会を認識し、判断していくのかに関する実証的研究の蓄積が必要である。